

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 29 年 9 月 7 日 (2017.9.7)

【公表番号】特表 2014-524486 (P2014-524486A)
 【公表日】平成 26 年 9 月 22 日 (2014.9.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-051
 【出願番号】特願 2014-523296 (P2014-523296)
 【国際特許分類】

C 1 0 G 45/02 (2006.01)

【F I】

C 1 0 G 45/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 29 年 7 月 27 日 (2017.7.27)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

2 以上の反応器、特に 2 以上の反応空間が並列に配置された研究施設規模の反応器（研究施設の触媒装置）の配置構成において生成流体ストリームを処理する方法であって、

（a）液体フィード、水素または他の反応ガス、または液体フィード、水素（または他の反応ガス）及びキャリアガスを含有する出発液体ストリームを個々の反応空間にそれぞれ供給し、

ここで前記液体フィードは、硫黄含有量が 0.5 ～ 7 質量％であり、及び窒素含有量が 0.1 ～ 5 質量％であり、及び

（b）個々の反応空間から生じる生成流体ストリームをそれぞれ分離器に搬送し、

少なくとも一種の不活性ガスを、反応空間の出口側における個々の領域、好適には反応空間と分離器との間に供給し、不活性ガス（ V_{IG} ）の体積流量と生成流ストリーム（ V_{PFS} ）の体積流量との比 V_{IG} / V_{PFS} は 10 であることを特徴とする方法。

【請求項 2】

不活性ガス中の気相の窒素が、50％以上、好適には 90％以上、より好適には 95％以上であることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

液体フィードが、油、重油、灯油、ディーゼル、ガソリン、GVO（ガス真空オイル）及び／または常圧残油（ロングレジッド）のクラスから選択された物質を含有することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

反応空間の温度が 100 ～ 700 の範囲であり、反応空間の圧力が 20 bar ～ 250 bar の範囲であり、

より好適には、反応空間の温度が 150 ～ 550 の範囲であり、反応空間の圧力が 50 bar ～ 200 bar の範囲であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

供給される出発流は、0.05 ～ 10 h⁻¹、好適には 0.5 ～ 3 h⁻¹ の範囲の LHSV を有し、

装置に接続される個々の反応空間はそれぞれ、0.2 ～ 100 ml の範囲の内部容積、

好適には 1 ~ 50 ml の範囲の内部容積を有することを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 6】

反応空間は、500 ml 未満、好適には 250 ml 未満、より好適には 100 ml 未満、さらに好適には 50 ml 未満、特に好適には 10 ml 未満の内部容積を有し、

特に好適には、個々の反応空間は、0.2 ml ~ 100 ml の範囲の内部容積を有することを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

上記した本発明の目的及び上記していない本発明のさらなる目的は、生成流体の継続的な処理についての請求項 1 に係る方法によって達成される。この方法は、2 以上の反応器、特に、並列に設けられた 2 以上の反応領域を有するラボスケールの反応器を備える装置（研究施設の触媒装置）において生成流体ストリームを処理する方法において、

（a）液体フィード及び水素または他の反応ガスまたは液体フィード、水素（または他の反応ガス）及びキャリアガスを含む出液液体ストリームを個々の反応領域にそれぞれ供給し、

（b）個々の反応領域に存在する生成ガス流をそれぞれ分離器に搬送し、

不活性ガスが、反応領域の出口側の個々の領域、好適には反応領域と分離器との間または分離器と出口側流下制限器との間に供給され、かつ不活性ガス（ V_{IG} ）の流下量と生成流体ストリーム（ V_{PFS} ）の流下量との比 V_{IG} / V_{PFS} は、2 または 5 であることを特徴とする。